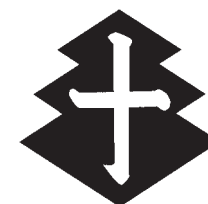




SU GA TA

No.16

特定非営利活動法人
小笠原流・小笠原教場



特定非営利活動法人
小笠原流・小笠原教場

ごあいさつ

コロナ禍が収束し、様々な行事が再開されました。残念ながら中止や執行取りやめとなった行事もいくつかありますが、対面での講演会は再開され、海外からの訪問者も多くなってきました。コロナ禍に教場の改修をしていた結果、講演会や体験会をより効果的かつ効果的に開催できるようになりました。これまでは行事の準備や片付けが大変で、稽古に支障をきたすこともしばしばありましたが、改修工事により適切な動線が確保され、道具の管理だけでなく稽古環境も整いました。

インバウンドの体験型の需要が増え、小笠原流への関心も高まっています。これは、複数のツアー会社からの依頼があることも表れています。また、コロナ禍で頻繁に開催されたオンライン稽古の影響で、海外の方々の中で小笠原流に興味を持ち、門人になりたいという方が大変多くなってきました。これからも様々な方法を用いて、小笠原流の道統を継承し、多くの方々と協力しながら進めていく所存です。今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げます。

特定非営利活動法人

小笠原流・小笠原教場

理事長

小笠原清基



平塚八幡宮節分祭除魔神事(平成22年)



鹿児島・鶴嶺神社奉納草鹿式(平成27年)



鶴岡八幡宮奉納三々九手挟式(平成27年)

弓道との出会いは昭和45年、島根県立江津工業高校の弓道部入部から始まります。校舎から離れた松林の中にある弓道場を覗き、初めて見る弓道に魅せられて入部しました。3年間の部活の中で高校3年の夏に同級生と3人で国体島根県代表選手として顧問の自宅へ泊まり込み強化合宿をした日々が懐かしい思い出です。高校卒業後の就職先も弓道部がある自動車会社を選びましたが、会社の弓道場は体育館脇の野立ちでした。折しもオイルショックで残業がなくなり余暇が増えると、弓道経験者が集まって稽古をするようになり、実業団弓道大会にも参加するようになりました。しかし指導者がいなかったため鎌倉の山口正一教士に指導に来ていただく、鎌倉で稽古をしないと勧められ、鎌倉

弓道との出会い、 25年のブランクから再開

弓友会の準会員として稽古をさせていただきました。この弓道場は、現在の鶴岡八幡宮研修道場の場所にあった鎌倉市営弓道場で、神奈川県体の弓道会場でもありました。約3年間稽古に通い参段を認許されましたが転勤により退会し、その後は、京都など各地へ転居したため弓道を続けることが難しく、25年間のブランクとなりました。弓道再開のきっかけは、会社から定年退職前に受けた人生設計セミナーでした。定年後は1人で出来る趣味を持ちなさいといわれ、もう一度弓道をしようと決意し横須賀市弓道協会へ入会、1年間稽古し四段を認許されたものの、鎌倉で参段を認許されてから四半世紀が経過していました。横須賀は、夜間に稽古が出来ない市営弓道場でしたので、通勤帰りに稽古が出来る鶴岡八幡宮研修道場弓道科へ所属変更しました。このことが小笠原流と出会い、入門に繋がったと思うと感慨深いものがあります。



平塚八幡宮節分祭除魔神事(平成27年)



小笠原流で稽古を始めた経緯

私が小笠原流の稽古を始めたのは平成15年、鶴岡八幡宮研修道場弓道科の門人として稽古をしていた時に、同じ道場におられた小笠原門人の水谷武夫氏(相位弓、日弓連教士六段)から小笠原流へ誘われたことに始まります。翌平成16年に小笠原流鎌倉古式弓道保存会(現・鎌倉菱友会)有井弘臣会長の取り立てにより入門させていただきました。48歳の時でした。恥ずかしながら、当時私は小笠原流のことを全く知らず興味もなく、小笠原

流の弓道を教えていただけるのだろうかと思いはじめ、そのまま入門させていただきました。最初は、奉納行事の度に直会があり御神酒を頂けることから、なんといい会だろうと気楽な気持ちで参加していましたが、その後身近な先輩から教場行事や研修会などに誘われ少しずつ小笠原流を学ぶことが出来たと思います。入門から14年経過した平成30年、思いがけず小笠原教場から重藤弓格免許へ推薦された時は、身に余ることと恐縮すると同時に、免許に恥じないよう励んでいかなければとの思いを強くいたしました。



鶴岡八幡宮除魔神事大式的(平成25年)

良かったこと、印象に残ったこと

弓道を続ける目的は個々人で色々あり、大会や審査で好成绩、称号・段位を目指す人、健康増進や精神修行を目指す人、親しい仲間と交流の場としている人など様々だと思います。小笠原流では、射技・体配所作の本質と美しさ「技と格」、弓術の本質について教わります。指導は枝葉末節に囚われるのではなく幹を重視され、日々の生活の中で鍛錬を積み重ねていくことの重要性も学びます。一例ですが、弓道の「足踏み」について目から鱗が落ちたように感じたことがあります。全日本弓道連盟で稽古をしていた時は弓道八節として射位で足踏み後に胴造りを教わりますが、本来武道は道場へ入る時から退出まで胴造りが出来ているものと教わり、本質の一端を教わったように衝撃を受けました。令和四年度から毎月オンライン稽古が始まり、礼法と歩射を全国各支部の門人が等しく受けることが出来るようになり、また毎年歩射研修合宿や対面稽古会も定例開催されるなど小笠原流を学ぼうとする環境が一層充実されていくこと大変嬉しく感じています。また、私が入門から現在までの約20年間、小笠原門人でなければ参加出来ない行事も沢山経験させていただきました。フィンランドでの流鏑馬と大的式、ロシアでの流鏑馬と弓道セミナーをはじめ、伊勢神宮・明治神宮など全国各地の神社で毎年執行される歩射の奉納行事などに参加させていただき、全てが門人交流を含めて印象に残っているもの



鎌倉宮神事草鹿式(平成28年)

稽古における挑戦

小笠原流の稽古や行事へ参加するようになった当初は、全日本弓道連盟の稽古も続けていましたので次第に行事が審査や講習会の日程と重なることが多くなり、どちらに参加するか悩んだこともあり、また、弓道で目指していたものは射品、射格、至誠、礼節などであったはずが、いつからか昇段試験を目指すことに終始していたことに自問していました。その頃、小笠原流の稽古や行事に参加する機会が増す度に、長い歴史の中で無駄のない理にかなった所作と礼法を重視される小笠原流をもっと学びたいとの気持ちを強くしました。入会した鎌倉菱友会は、かつて鶴岡八幡宮境内にあった鎌倉市弓道場を本拠とする鎌倉弓友会会員の小笠原門人が集い、昭和20年代より奉仕してきた鶴岡八幡宮除魔神事大的式や例大祭流鏑馬神事の諸役など、源頼朝公の時代から連綿として執行されてきた儀式の伝承保存を目的に昭和55年「鎌倉市古式弓道保存会」として設立されたものでした。私が入門した当時は、先輩から鎌倉の行事だけやっておけばいいと言われたことがあり、教場行事などへ参加出来る雰囲気ではありませんでした。そんな中、鎌倉菱友会前会長の小林信夫氏が会長になる前、各地の教場行事によく参加されていたことが、支部内では勝手に参加しているとの評価でした。そのような評価に、なぜ教場行事へ参加することがいけないのか、私は疑問を感じていました。入門して8年後の平成

ばかりです。また、以前は小笠原教場の敷居の高さを感じていましたが、教場へ色々お手伝いに参加の機会をいただき身近に感じられるようになったことを後進にも引き継ぎたいと思います。来年は古希を迎えますが、これからも何かに挑戦する気持ちを持ち続けて精進したいと思っています。



香取神宮奉納大的式(平成30年)

24年、私が鎌倉菱友会の事務局を担当しその後小林氏が会長に就任された頃、「より多くの方が教場行事へ参加するようになれば、他支部との交流が増えて歩射を学ぶ機会も増えていく」と考え、従来の行事費補助（参加費の2/3）に加えて、東京・神奈川以外の遠方の行事参加には、距離に応じて最大5千円の遠征費を新設するよう提案しました。この遠征費の予算は、事務局経費の合理化を充てることで承認され、その後3年間運用した結果、年間の遠征人員は、運用前5/10名から運用後30名/40名へ増加しました。教場行事の参加意欲に繋がり初期の目的が図れたと判断し4年目以降から遠征費を廃止しましたが、その後も各地の教場行事へ積極的な参加が見られるようになりました。また、日頃の稽古は、毎週土曜日に鶴岡八幡宮研修道場の1階武道場をお借りして行っていますが、鶴岡八幡宮除魔神事や支部行事の前には、日曜日に研修道場の武道場を1日お借りして、本番さながらの通し稽古、修礼を毎回実施し、技量向上に努めているところです。



「ロシアにおける日本年」流鏑馬神事(平成30年)アキモワさんご夫妻と



鎌倉宮御鎮座150年記念例大祭 簾目の儀奉納(令和元年)

私と小笠原流

粕谷 武

NPO法人小笠原流・小笠原教場会員の粕谷と申します。

住まいは横浜市旭区で、東京の森ビルという会社で営業職をしておりますが、お声がかかりますと、浅草、京都、北九州などまで、行事の会場での書籍・グッズ販売や広報に馳せ参じております。

さて、私と小笠原流との出会いは、今から30年ほど前に遡ります。

先代御宗家の小笠原清信先生は、私の母校である明治大学で文学部教授をお務めになっておられました。

私が入学したのは、先生が退官されたずっとあとで、実際にお会いしたことはありません。しかし、私は先生によって小笠原流とのご縁を結んでいただいたのです。



再びのご縁

小学生になった息子に、何か「生きていくための糧」となるような習いごとをさせたいと思っていました。そんなとき、子ども向けの礼法教室が開催されることを知り、息子にも学生時代に教場で経験した世界に触れさせたいと思いました。

同じく白鷺会出身の妻も賛成し、小学三年生で始めた礼法教室（大宮八幡宮）は、その後、教場に場所が移り、娘もお世話になりました。

今年息子は大学生になりましたが、子ども流鏝馬教室も含めて中学一年生まで教場に通い、若先生や門人の方々から直接ご指導を受けることができたことは、彼の人生に良い影響を与えてくれていると思っています。また、高校生になる娘は、人の心を慮ることができる子に育ってくれました。

子どもに付き添っていた私ですが、実は自分が小笠原流に触れたかったのです。その後、小笠原清基若先生からのお声かけをいただき、販売などのお手伝いをするようになりました。



子ども流鏝馬教室での長男

明治大学居合道白鷺会

私が所属していた明治大学居合道白鷺会は、今年創立55周年を迎えます。

昭和40年代ですら50年以上前のことです。学生の中に居合道を志す者があり、学内に居合道部をつくろうという機運が高まりました。その学生の相談を受けられた小笠原清信先生は、師範として鈴木庸介先生を紹介してくださいました。

鈴木庸介先生は、第一回全日本居合道大会七段の部で優勝された方で、当時の居合道界随一の実力者でした。こうして白鷺会は、小笠原清信先生を初代会長、鈴木庸介先生を初代師範として昭和44年（1969年）に発足したのです。

そのようなご縁もあり、白鷺会の学生は、新年には教場にご挨拶に伺っていました。

もとより明治大学は、江戸時代に小笠原家の御屋敷、維新後には教場があった場所に隣接しており、

「小笠原流展」

関係した行事の中でも「小笠原流展」と「旭区流鏝馬」は特に印象に残っています。

平成30年（2018年）10月に開催された「小笠原流展」は、写真家の森山雅智さんの写真を軸にした展覧会でしたが、トークセッションやニコライ堂をバックにした「木馬の型」演武、流鏝馬VR体験など様々な企画を盛り込みました。

会場は、御茶ノ水駅近くの「ギャラリー蔵」でしたが、実はここを管理する組織の担当の方が、門人の方（故人）の娘さんでした。その方は、父上が装束を着けて弓を引いていたことを覚えていたものの、それが小笠原流の弓術であることを認識していなかったそうです。



小笠原流展の会場「ギャラリー蔵」

弓道部は歴代御宗家を師範に戴いています。また、同じく先代御宗家に師範をご紹介いただいた例として、琉球古武術の紫雲塾古武道部があるなど、明治大学は小笠原流とご縁が深いのです。

初めて教場に伺ったのは、小笠原清信先生が亡くなられた平成4年（1992年）の正月で、大学四年生になる年でした。先生は教場にはお出ましではありませんでしたが、御本宅におられる先生に聞けるよう大きな声で「白雲なびく」の校歌を歌いました。

その時の教場の様子が学生ながら印象に残り、懐紙にいただいた勝栗を眺めたりしていましたが、稽古の前に行っていた騎射体操の意味も理解しておらず、小笠原流とご縁は途絶えていました。

そして、時間は20年ほど経過します



明治大学居合道部時代



小笠原流展「木馬の型」演武

秋は展示の企画が多く、通常はかなり前から予約が埋まるそうですが、その方いわく「小笠原流展のために空けて待っていたようだ」とのことでした。理解のある担当者に恵まれ、成功裏に終わった展覧会でしたが、不思議なご縁を感じずにはいられませんでした。

この時初めてお会いして一緒に企画を進めたダイヤー彩野さん（「姿」の編集者でもあります。）とは、その後も色々な行事で協力しあい、今では最も信頼できる友人の一人となっています。

門人の方はもちろん、小笠原流に関係する方は、個性的で必ず光るものをお持ちです。そんな方々と交流できるのも、小笠原流に関わることの魅力の一つです。



鶴岡八幡宮流鏝馬神事での弓袋差奉仕

与すると確信しています。
 これからも、このような思いで、お手伝いをしてまいりたいと思っています。
 最期にお願いがあります。行事などで私を見かけたら、気軽にお声かけください。門人の方々は、不勉強な私の解説などを、どうぞお助けください。
 そして、お時間があれば、販売や解説を手伝ってください。そこに訪れる方に臨機応変に対応し、交流することは、とても刺激的な体験です。
 きつと、今まで会ったことのないあなたに出会えることでしょう。嘘はつきません（笑）。



会場での広報の様子(小倉城流鏝馬)

私が思うこと

私は常々「昔の人々はどのような暮らしをしていたのだろう」と考えてきました。

伝統的と考えられている年中行事なども、明治期以降に成立したものが多く、寺社の建築や儀礼も、維新後の「神仏分離」で変容したとされます。武家文化の担い手であった旧大名家は華族となり、欧化政策の先頭に立つ立場になりました。

伝統的なもの全般にいえませんが、近年、SNSな



諸役を務めた長男と

大雨で馬場の土が流れ、早朝から旭会の皆さんの必死の復旧作業で、前日稽古の公開ができたことは、感激とともに今でも忘れられない記憶です。

私も、公園事務所との折衝などのお手伝いをしましたが、当日の朝、門人の皆さんに手づくりの食事をお出ししたいと母に相談し、妻の手も借りながら、未明から赤飯のお弁当を実家で調理したのは、よい思い出です。

旭区流鏝馬は、地域の特性を旭区誕生50年の記念行事に折り込みたいと考えた古川さんの発案で、商工事業者の集まり「旭会」を中心に企画が進められ、若先生や門人の方々のご協力を得て、令和元年（2019年）10月27日「こども自然公園」で開催に至りました。



畠山重忠公最期の地で行われた旭区流鏝馬



旭区流鏝馬のポスター



地元ボーイスカウトによる習礼

「旭区流鏝馬」

衆議院議員の古川直季さんは、大学の先輩にあたり、地元が一緒でもあります。お誘いした教場でのレクチャーがきっかけで、小笠原流を知ることとなりました。伝統文化の継承を大切に考えている古川さんも小笠原流のすばらしさに気づき、その後、一緒に若先生にお願いして、旧神奈川宿に残る料亭「田中家」で子ども礼法教室を開いていただきました。

皆さんは横浜というと海や港をイメージされると思いますが、私の生まれた旭区は、市の西部に位置し、大規模公園などの緑地が多い地域です。また、「坂東武者の鑑」といわれる畠山重忠公最期の地として知られており、鎌倉時代の史跡などが多く残っています。

小笠原流の行事から

布引 (ぬひき)

源平合戦の頃、母衣(ほろ)という矢を防ぐ防具をまとった母衣武者が、戦の前に双方名乗り合い、馬の技術を競い合うという事がありました。現在は宮内庁で「母衣引き」として受け継がれています。時が下り、上覧の馬術として、一丈(3.03m)の布を背より流し、地面に着くことなく馬を進める技に「布引」がありました。当時は大人の太夫が行なうものでしたが、神事の流鏑馬の後、騎射挟物に移る前に、稚児にて神賑いとして行なわれることがあります。現在は、射手を目標し騎射の稽古をする子供に、射手として奉仕する心構えを身に付けさせるため、子供による布引を実施しております。往きは速歩で進み、復路は布を全て流し、駆け足で、地面に布が着かないように走り込みます。



令和5年9月16日 鶴岡八幡宮 小笠原清真(7歳)



鶴岡八幡宮 流鏑馬神事

令和5年9月16日
4年ぶりに開催されました。
小笠原流YouTubeでも
行事の様子を配信しています。



理事長のつぶやき

稽古のあり方

していく中で、より効果的にできる方法を常に模索しています。曜日や時間帯を変えらるというのも一つの方法ですが、それぞれのタイプから得るものもありますし、熟達の方の経験を伺うということも大切なことです。分離することは必ずしもよい結果を生むわけではないので、時に融合も必要です。バランスを考えながら、皆が大きな使命である『道統の継承』に向かつて進めるようにしなくてはなりません。

小学生、高校生の対応も難しいところです。子どもは大人とは違いますが、一人の人であります。子ども扱いしすぎることは問題であり、一方、大人のように行動することもできません。無意味に厳しくしても何も生み出されないし、甘やかすと成長するにつれて対応が難しくなってしまう。遊びのように行いつつ、しかしながら目的意識を持ち、稽古と休憩のメリハリをつけ、飽きないように適切にやる内容を変えていくのがよいのだと思います。大人が付きつきりで稽古をするのではなく、自分で考えながら稽古をして、必要な時に必要なだけ助言をしていくことが必要だと思っています。多くの場合には言い過ぎてることがありますが、言われて出来ることと、自分で考えながら身に着けていくことは大きく異なります。伸びしろを見極めながら各自にあった対応をしていくことが必要だと思えます。言うは易しで、これまで30年ほど失敗をし続けてきたと思います。そして、ついにある程度の方針が固まってきたのではないかと思います。10年以上続けてきた子ども流鎗馬教室や礼法教室などから

小笠原流で稽古をされる方は、様々な目的や思いをもつて来られています。年齢や性別、社会的背景も様々です。そういった方々が同じ場所で稽古をしていくとなると、進め方が難しくなる場合があります。小笠原流の門人である以上は、小笠原流の道統を共に継承していくというのが絶対的な使命ではありますが、そのアプローチ方法は異なります。多くの方は必ずしも初めから高い志を持って稽古に來られているわけではありません。装束が着たい、格好いい、何となく出来そうだから、コミュニティが欲しいなどのきっかけです。当初の思いのまま終わる方もおられますが、共に過ごす時間が長くなるにつれ、段々と小笠原流への思いが変わる方が多くおられます。そうやってきた時に、さらに技量を向上させようとするのか、それとも、別の部分（講演会などの補佐、事務局などの裏方作業など）で補佐していこうと思うのかは人それぞれです。例えば、射手として活躍したいと思う方は、求められる技量が高いので必然的にそれなりの稽古が必要です。つまり、稽古場だけではなく、それ以外の普段の生活の中でも稽古することが求められます。それは、一般の方にはつらいことだと思いますし、そこまでは出来ないという内容であるかもしれません。何事も極めるというのは大変なことです。極めようとしている方にとっては、楽しみながら稽古をしている方は、時としては快く思えない場合もあります。しかしながら、門人として受け入れた方は全ての方が流派にとって大切な方です。様々な方が稽古をし

子どもとの関わり方を多く学びました。今現在、小笠原教場では、小学生と中学生あわせて8名ほど稽古をしています。順調に育ち、射手となり、そして、その姿を観て、新たな方が入るという好循環を生み出していく必要があります。今の時代は、様々な選択肢があり、それを各人の意思で自由に選ぶことが出来ます。その中で小笠原流をやりたい、やっていてよかったという様になる存在でありたいと思います。

外国の方との稽古も段々と難しくなると思っています。外国の方は大変に熱心な方が多くいらつしやいます。日本の門人の方々への期待も当然ながら高く持っています。日本にきて、日本の門人と稽古をしたいと思つて來られても、皆が皆、期待に応えられるような技量ではありませんので、思いを打ち砕かれる場合があります。私が毎月行っているオンライン稽古も海外の方々は熱心に見ておられますので、場合によっては日本の門人よりも年数が少なくてもよく出来る方がおられます。この現象がどんどんと進んだ時に、海外の方々との関わりは難しくなるのだと思います。国内外問わずに、技量をあげて道統の継承に貢献いただけることは大変に重要なことです。理想としては切磋琢磨していただきたいと思えますが、人はなかなかそうはなりません。

そのためにも、礼法の精神性をしっかりと国内外の門人に浸透させていくことが大切なのだと思います。他流を批判することなかれ。他人を大切にするためには自分を大切にする。絶対的な指



小笠原流 NPO交流サイトを利用していますか？

小笠原流NPO交流サイトでは、会員同士が小笠原流の活動に関する情報や、メディア出演・掲載のニュースなどを共有して交流できます。ぜひご活用ください。

掲示板の閲覧方法

1 掲示板入り口

<https://www.npo.iccho-ogasawara-ryu.com/>を開き、**【掲示板入り口】**をクリックする。



2 ログイン

NPO 会報誌「姿」に記載しているログインパスワードを入力して、**【ログイン】**をクリックする。
※今年度は「ogasanpo24」です。



掲示板への登録方法

掲示板に記事を記載したり、新しい記事が記載された場合にメールでお知らせが欲しい場合には、以下の手順に従いメールアドレスとパスワードを登録してください。 ※以前にメールアドレスとパスワードをご登録している方は不要です。

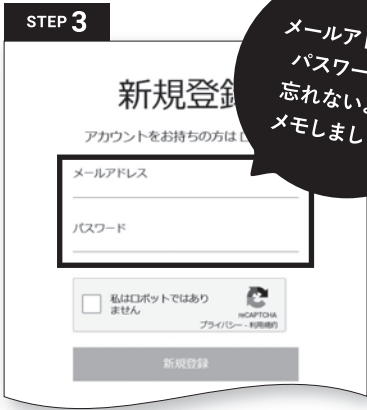
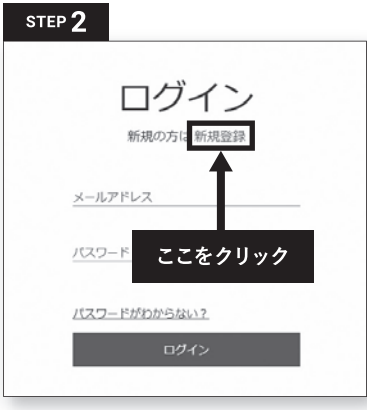
1 新規登録画面

掲示板のページで**【ログイン】**をクリックし、**【新規登録】**をクリックする。



2 新規登録をする

メールアドレスと任意のパスワードを入力し、**【新規登録】**をクリック。



標である自身の呼吸を意識する。こういったところを浸透していく必要があると強く感じます。江戸時代に武道は人間形成の面が強くなりましたので、勝ち負けでは無く自己修練であり、誰がどうではなく、自身がどうあるべきかを見つめることが大切です。それがゆえに、武道の世界では他流を批判することなれと言われるわけです。多くの方々のご意見を伺いながら、時代にあった稽古のあり方を模索していきたいと思います。



子ども流鎬馬教室

教場にて、子ども流鎗馬教室を行いました。6回講座で稽古着の着方や馬馬での稽古、弓の引き方などを致しました。本教室は、文化庁の助成事業です。



弓道教室

埼玉県北本市にあります小山弓具併設の弓道場にて、弓道教室を行いました。毎年、弓道教室を修了された方から門人になれる方もおられ、小笠原流の弓術の普及に貢献している教室です。また、同施設では外国人の方を対象とした弓道教室も開催しています。

礼法教室

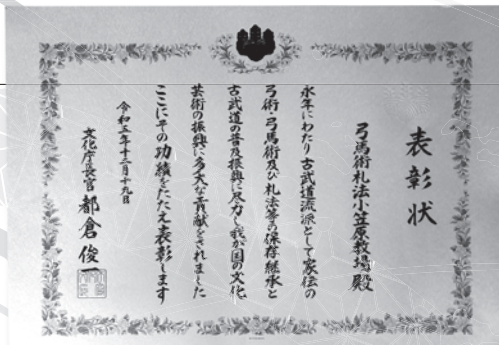
千代田区にあります区の施設をお借りし、水曜日の夜に礼法教室を行っております。講師には小笠原流の礼法を稽古されている門人の方々にお願いしております。週末や平日の昼間の稽古では時間が合わない方々に小笠原流の稽古をしていただける場として大変有用な機会を提供出来ていると考えております。

ウェブサイト

海外の方々に認知をしていただくためにウェブサイトを更新しました。

その他

- 弓馬術礼法小笠原教場が、令和5年度文化庁長官表彰に選ばれました。
- 矢道の整備を行いました。
- 諸道具の作製を行いました。
- 道具の修繕に関わる環境整備を
- 教場にモニターを設置し稽古環境を整えました。



2023年度の活動報告

学びと繋がりの方 ～様々な場所で多くの方に参加いただきました～

海外観光客向け体験会



日本に観光に来られた外国人の方々を対象とした体験会を行いました。

ハワイ・フランスでの講座



ハワイ・フランスで行われた講座を一部支援しました。両地域ともに多くの方が参加をされました。

会員向け流鏝馬体験会



品川 武士の学校体験会



- 京都にて女性向け礼法講座を開講いたしました。
- みたけ幼稚園で園児対象の体験会を行いました。
- 品川武士の学校において体験会を行いました。
- コロナ禍で中断しておりました会員の方向けの流鏑馬体験会を実施しました。
- 国内において講演会を実施しました。

会員制度と特典のご案内

NPO法人 小笠原流・小笠原教場では、特別賛助会員を設置いたしました。
会員になっていただける方は下記事務局までお問い合わせください。

	個人会員	法人会員	特別賛助会員
入会金	5千円	5千円	5千円
会費ならびに寄付金	一口以上 (一口1万円)	三口以上 (一口1万円)	一口以上 (一口10万円)

※特別賛助会員は総会での議決権が付与されませんことをご承知おきください。

	個人会員	法人会員	特別賛助会員
門人向け会報「糾方」(年二回発刊)	1部	3部	20部
会報「姿」(年一回発刊)	1部	3部	20部
行事拝観	2名まで	5名まで	20名まで
掲示板の閲覧	○	○	○
掲示板への社名記載	—	—	○
教場での社名記載	—	—	○
税優遇	—	—	—

ご寄付のお願い

NPO法人 小笠原流・小笠原教場では、小笠原流の伝統文化の保存と育成を目的としてご寄付をお願いしております。
寄付いただける方は下記事務局までお問い合わせください。

寄付金額:1回3千円以上

寄付いただいた方には、年二回発行される会報誌「糾方」を送付させていただきます。

税控除について

2017年に認定NPO法人となりましたので、寄付頂いた後に確定申告されると、寄付金控除を受けることができ、最大約半額が戻ってきます。

※詳しくは最寄の税務署にお問い合わせください。

NPO 法人 小笠原流・小笠原教場

<https://www.ogasawara-ryu.gr.jp/NPO/> e-mail npo@ogasawara-ryu.gr.jp

令和6年4月1日 特定非営利活動法人 小笠原流・小笠原教場 発行

編集・発行人 小笠原清基

〒251-0037 神奈川県藤沢市鵠沼海岸 2-17-4 TEL 0466-34-4089 FAX 0466-34-4102

©Ogasawara-ryū Ogasawara-school 2024 Printed in Japan